



本誌は環境にやさしい  
植物油インクを使用しています。

建築業法における株式会社 日立産機システムの許可  
○平成22年7月19日国土交通大臣許可(第22)第004603号  
建築工事業、機械器具設置工事業、電気通信工事業、消防施設工事業  
○平成22年7月19日国土交通大臣許可(特22)第004603号  
電気工事業



# 地球の絶景 | vol.1

Republic of Ecuador  
Cotopaxi

写真:日経ナショナル ジオグラフィック社発行「絶景×絶景」より

## コトパクシ火山

### 美しく激しい「エクアドルの富士山」

雪をいただく山頂、なだらかなシメトリの稜線。一瞬、富士山と見まがう美しい姿だが、このコトパクシ火山が位置しているのは南米のエクアドル共和国。首都キトから南へ55kmほど下ったアンデス山脈の中にある。標高は富士山の3,776mよりはるかに高い5,897m。富士山との決定的な違いは、コトパクシ火山が現役の活火山であるという点だ。時に東西500m以上、南北700mと推定される火口から噴煙が立ちのぼり、雲の上に煙が広がる不思議な光景が出現する。1903年に大爆発を起こしているが、1744年の噴火の際にはその爆音が国境を越え、800km以上も離れたコロンビアのオンダマまでとどろいたといわれている。過去幾度となく火を噴いてきたこの山が、インカ帝国の公用語でもあったケチュア語で「光る巨大なもの」を意味する「コトパクシ」と名づけられたのもうなずける。

初登頂の記録は1872年となつているが、今では4,200m地点まで車で行くことができ、4,800m地点には山小屋も設置されている。そこから約6〜8時間で登頂できることもあって、世界中から多くの登山家が頂上をめざす。標高5,000m以上の険しい氷河の先に待つ壮大な眺め、神々しい日の出は人々の心をとらえて離さない。



コトパクシ火山 | エクアドル共和国